

近

思

雜

研

談

記

或



天竺勝滿婦人 班是王之姬也 大唐及魏時妹嬉殷紂時妲己

日本近衛院之取玉深奈後九尾之狐石是也又月堂之時廣姬也

建御湯驩山負現十八年太宗夏也自五木湯貴妃賜視山初也西

華清宮有蓮華湯貴妃沐浴之所楊妃外傳縊楊妃上策貴妃樹

楊妃注高力士縊楊妃於梨下古

玄宗起終南山向寺之羅漢二人有漏羅漢文在漏羅漢

有漏羅漢了也音示好也有說法時天女來色音示在漏羅漢前

三美其特約束上唐正一生行夫婦

○味付書抄





○知時識勢條

易傳ノ序ニ九通リノ意ヲ教ヘモ人初チラノケテオイト  
君子ノ人相ツニモ此ノ失ズラシクハカクニ思ハ  
及ビハクニ人親君臣ノ義ト云フコトモ天比ナキ  
ク先内シヨリモ舞ヤルコトモ君臣ノ義ト云フコトモ  
モアリノ日シ忠義ニモソノ国ヲシリツカズニ死モアリ  
テモ死シヨリモ忠義ニモソノ国ヲシリツカズニ死モアリ  
コトシ云カヤルソシガ特ニ時ト云ラシラズバ場ガ又ケテ  
ナリニソノテナイノテスモ人ノ心ハ時ト云ラシラズバ  
アノ人モコレカクニカクニナラズアノ人モコレカクニ  
ガ時ノ心ニナ親友ノ日用ノ義比シテ死コトハカクナル  
イカクノアノハツト云カ日用ノ時ト云モ人ノ心ハ  
ウチンノ下ニナリナリカクニナリナリカクニナリナリ  
と云ニ世間ノイキライナリカクニナリナリカクニナリ

カトト思イオゴレハオゴンヤラニイワモ必ラモアノモ  
思イ表シバオトコノナリカクニナリカクニナリカクニ  
礼シテカクハナリカクニナリカクニナリカクニナリ  
コトノナリカクニナリカクニナリカクニナリカクニ  
テヨイト思テモカクニナリカクニナリカクニナリ  
レシアフワラカクニナリカクニナリカクニナリカク  
有モノナリカクニナリカクニナリカクニナリカク  
裏テ計又ナリカクニナリカクニナリカクニナリカク  
ナリカクニナリカクニナリカクニナリカクニナリカク  
用ラレハカクニナリカクニナリカクニナリカクニナリ  
アテモ必スヨリカクニナリカクニナリカクニナリカク  
シメリアノ人モカクニナリカクニナリカクニナリカク  
ナリカクニナリカクニナリカクニナリカクニナリカク  
ナリカクニナリカクニナリカクニナリカクニナリカク  
○大畜初二條

三三











人面其五色是謂光紀之細采納吉同各納微許協親近六禮之

薄薄新我衣正衣曰  
禱衣之祭先王禱禱小  
鞠衣之生采衣衣不見  
王及廣者縹衣之飾  
王也禱衣之飾縹之縹  
鞠衣之衣日縹也禱  
六服之首也

泥金五色下似人有泥  
如今永永泥衣宋取  
如物之象

結帛官言在進言  
後服用繇是治其容敬其詞嬖嬖方能以中上意上

益嬖焉時者風九及泥金五岳驪山雪夜上陽春朝  
上行同輦止同室宴專席寢專房魚有三夫人九

嬪廿七世婦八十一女律才監右宮妻人樂府妓女  
使天子無顧盼意自是六宮無復進幸者非從殊艷

泥六天子十二育一度之五岳處守有諸侯之封然其封不北方也去取于秦漢中央也五岳上之天會驪山金

首以白茅之則取其物系黃取王辛酉夜四方之私壽上先其被封方之乞土取于中里于其上之

先安祿山及於河北范  
陽縣是季天室十  
十一月天室十五載六  
月入山入長安憐國  
終不七月玄宗幸  
唐禮采恭云初有  
有曲其志佳新  
近雅玄宋昭遠選奴  
才于三百人教習蘭  
天室中余官人數百人  
為梨園才子又上皇  
里內教坊於道業官  
側居新考散羊傷  
優妓女出宮人弄  
實哀曲又教寫弄  
孟上壽及犀象或拜  
或兼山見而物  
既脂長安搜捕樂器  
乃乘歎衣白袍浴陽  
宴擬碧池盛養眾  
余梨園才子往之佳客

內使章柳  
祿廢聖教生與集

三宿日又二宿  
案下三宿上非亦在信云凡降一宿  
日舍再宿日信遺信為次三宿

止閑治如沃武帝孝夫人別疏湯泉詔賜澡室既出

水体弱力微若不任羅綺光秋煥發轉動照人土甚

悅進見之目卷霓裳羽衣以導之定情之夕授金釵

鈿合以固之又命戴步搖垂金璫明年冊為貴妃半

右服用繇是治其容敬其詞嬖嬖方能以中上意上

益嬖焉時者風九及泥金五岳驪山雪夜上陽春朝

上行同輦止同室宴專席寢專房魚有三夫人九

嬪廿七世婦八十一女律才監右宮妻人樂府妓女

使天子無顧盼意自是六宮無復進幸者非從殊艷

尤熊独能致是盖戈智明惠善巧便倭先意希旨有

不可形容者叔父昆弟皆列士在清貫爵為通侯姊

妹封國夫人富埒王室車服邸第与夫長公主侔而

見澤勢力則又過之出入禁門不問名姓京師長吏

為之側目故當時謠詠有云生女勿悲酸生男勿喜

歡又曰男不封侯女作妃君看女却為門楣其天下

心羨慕如此天室末兄國忠盜羨相位愚弄國柄及

安祿山引兵嚮關以討楊氏為辭潼關不守翠花南

幸出咸陽道次馬嵬亭六軍徘徊持戟不進後官即

軍方二千五百人六軍并七万五千人

軍方二千五百人六軍并七万五千人

軍方二千五百人六軍并七万五千人







卷之六 黃地之平竟  
天地之心之妃カ面也  
揚妃天寶十四年六月  
丁而日死ス山ノ北ニ

使伏上馬前請誅錯以謝天下怨國忠奉  
死於道周左右之意未快上問之當時敢亦言者請  
以貴妃塞天下之怒上知不免而不忍見其死及袂

頭見見  
カハカ  
カハカ  
カハカ

掩面使牽之而去蒼黃展轉竟就於尺組之下既而  
玄宗狩成都肅宗受禪吳武明年大兇飯元大駕還

今八十心  
カハカ  
カハカ

都尊玄宗為太上皇就養南宮自南宮遷于西宮時  
移夏去樂及悲來每至春之日冬之夜池蓮及開宮

カハカ  
カハカ

槐秋落利園弟子王殯發音聞霓裳羽衣一考則天  
顏不怡左右戲欵三載一意其念不衰求之夢魂杳

カハカ  
カハカ

不能得適有道士自蜀來知皇心念貴妃如是自言  
有李少君之術玄宗大喜命致其神方士乃竭其術

カハカ  
カハカ

以索之不至又已遊神馭氣出天界沒地存以求之  
不見又旁求四虛上下東極絕天海跨蓬壺見最高

カハカ  
カハカ

仙山上多樓閣西廂下有洞戶東嚮闔其門暑日  
妃大真院方士抽簪叩扉有雙鬟童女出應門方士

カハカ  
カハカ

造次未及言而雙鬟復入俄有碧衣侍女又至詰其  
所從來方士目稱唐天子使者且致其命碧衣云王

カハカ  
カハカ

妃方寢請少待之于時雲海沈三洞天日晚稅戶重

カハカ  
カハカ

貴妃翠黛減唐宮  
如唐又國七  
日李尾持懸明神  
自本道之計記貴  
如唐又國七

カハカ  
カハカ

老子去後本入具生殿懸老子神影  
遂盡其術  
取氣其氣吐行  
思其氣吐行  
署上字數多  
如唐又國七  
日李尾持懸明神  
自本道之計記貴  
如唐又國七  
貴妃翠黛減唐宮



コレカラ易シク多クサハキニナレカワラズ又多クアカシテオ  
カレタモノノシニ六上處正申中ト其下金正申ト當位ト云ハ位  
ハ易ノ六爻ノ陽陰トト下カクテ其下金正申ト當位ト云ハ位  
ト云當ト云ハ陰爻ノヨコニイタラ陽爻ト云中ノ中ト云ハ位  
陰爻ト云トシラ陽爻カ陽位ニ角陰爻カ陰位ニイラ  
當ト云ハムニ位ニイタラ其下金正申ト當位ト云ハ位  
ソトイハシニ其ニモニ中ト云正申ト云ハ位  
中ト云ヨクテ其下金正申ト當位ト云ハ位  
イシ元中ト云ハ位ニイタラ其下金正申ト當位ト云ハ位  
トナラテハ四ハ又外卦ノ下トナラテハ内卦ノ中ト云ハ位  
中常ト云ハ位ニイタラ其下金正申ト當位ト云ハ位  
正ト云ハ位ニイタラ其下金正申ト當位ト云ハ位  
イハテハ位ニイタラ其下金正申ト當位ト云ハ位  
一ハ一ト云ハ位ニイタラ其下金正申ト當位ト云ハ位  
吟味ハサレハ位ニイタラ其下金正申ト當位ト云ハ位

正ト云モノノ中ハ勿論親ニ如在ハナケレ元 故公ノシバラシ  
色ニフケフテハ其下金正申ト當位ト云ハ位  
ナカラハズイテハトアワテズシタモ正ト云ハ位  
色ニ弱シテソラシクアルニイテハ内ニ思カクテサテク  
ヨシトイハレニトガサレハ其下金正申ト當位ト云ハ位  
テモモノトイハレニイテハ其下金正申ト當位ト云ハ位  
イシト云ハ位ニイタラ其下金正申ト當位ト云ハ位  
コノヤリノカ正ト云ハ位ニイタラ其下金正申ト當位ト云ハ位  
ニ君ノ諫ヲ用ヌカ人者ト云ハ位ニイタラ其下金正申ト當位ト云ハ位  
ノ忠信ノ正重ト云ハ位ニイタラ其下金正申ト當位ト云ハ位  
ケヤリノモノトイハレニイテハ其下金正申ト當位ト云ハ位  
コシラガニイテハ位ニイタラ其下金正申ト當位ト云ハ位  
モ一ト云ハ位ニイタラ其下金正申ト當位ト云ハ位  
リノ書ノヨクサレハ位ニイタラ其下金正申ト當位ト云ハ位  
正ト云ハ位ニイタラ其下金正申ト當位ト云ハ位



蘭情然無志方士屏息欽足拱手以下久之而碧衣  
延入且目主妃出見一人冠金道被紫綃緋紅玉曳  
鳳鳴左右侍者七八人揖方士問皇帝安否次問天  
皇十四載已還豈言訖惘然指碧衣女取金釵鈿合  
各折其半授使者曰為奉謝太上皇謹獻是物繼曰  
好也方士受辭與信將行色有不足主妃固微其意  
復前跪致詞請當時一復得不聞于他人者驗於木  
上皇不然恐鈿合金釵負新垣平之詐也主妃范然  
退立若有所思徐而言曰昔天竺十年侍輦避暑驪

氏族自詳有之新垣  
平詐漢文帝時人持  
木孟玉孟上之天子佛  
前云夏八言口中室氣  
力云云及持世下聖之  
捧五孟是詐也  
新垣平漢文帝時平使  
人持玉孟上香竅下  
飲之乃平竅下亦有室  
玉孟來者已而果有  
人缺玉孟見排也

山宮秋七月七日牽牛織女相見之夕秦人風俗是

夜張錦綵陳飲食樹瓜華禁香于庭号为乞巧宮掖

間尤尚之時夜殆半休侍衛於東西廂獨侍上憑肩

而立目仰天感牛女夏密相誓心願世世為夫婦言

畢執手各嗚咽此獨君王知之耳因自悲曰由此一

念又不得居此夜墮下界且結後緣或為天或為地

且決再相見好合如旧自言木上皇亦不久人間幸

惟自安無自苦耳使者還奏太上皇心震悼目不

豫其年及四月南宮晏駕元和元年冬十二月大原

七夕香合上二以紫  
墨瓜花上備之  
叶則香合中啣味卦  
細也

杜詩前出塞九首  
摩刀鳴咽心未及傷  
手欲輕腸斷心緒已亂

玄宗七十八崩也

昇平八十年七十八

和元年冬十二月大原  
此以下長恨傳作  
元和中十五年庚子  
配流







白樂天自按昏即尉于盤屋鴻與鄰鄰王質夫家于  
 是也暇日相携遊仙遊寺語及世更相與感歎質夫  
 舉酒於案天前曰夫希代之更非遇出世之才潤色  
 之則與時銷沒不聞于世樂天深於詩多於情者也  
 試為歌如何樂天因為長恨歌意者不但感其更亦  
 欲懲尤物室亂階岳於將來也歌既成使鴻傳焉世  
 所不聞者予非開元遺民不得知世所知者有玄宗  
 本記在今但傳長恨歌云尔  
 長恨歌傳之終

憲宗五代目時作之  
 六代目陳鴻撰

至三五誰能知子毛結也  
 加少綉僧名法秀

長恨歌

序今世多上讀則序力向要之并序讀則之步疎之  
 并序 齊 漢 白 朱 夫 自 序 也  
 天長地久有時盡此恨綿綿無絕期云也

馬嵬在咸陽之西  
 西貴妃方所產也  
 玄宗前生終而面何  
 院僧也貴一前生天  
 也

長恨者楊貴妃也既瘞於馬嵬矣玄宗却後宮闕思  
 悼之至今方士求致其魂魄昇天入地求之不得乃

別服名壽王妃楊氏  
 梅其玄宗皇后死武  
 妃甚得愛幸開元中  
 四年死玄宗念不已后  
 宮有教子不當心  
 別服名壽王妃楊氏也  
 蓋純在乃上見也  
 使道士取壽佛聚為  
 女道士子大真天寶四  
 我請歸山貴妃美良子  
 李姓神楊則志命梅  
 柄大祀祀山謀及李年  
 妃幸一男遂至馬嵬老  
 將軍劍殺憤怒之元  
 劍令彭甘又物之新  
 雲似一物

於蓬萊山仙宮忽見素白慘然流淚語使者曰我本  
 上界諸仙先与玄宗有恩愛之故謫君於下世得為  
 夫妻既无之後恩愛已絕今汝來求我恩愛又生不  
 久却於人世得為配偶以此為長恨耳使者曰天子  
 使我至此既得相見願得平生所翫之物以明不謬

乃搜細合一扇金釵一股玉之曰將此為駿使者曰

鶴版之字釵作



テメニテノスル根本ガリシテイルユヘガテモ何デモナラ  
ワヤウヤウニモルモソノ生カラユキヲシテ  
イルニ何あト理ヲ知テモ此ノキキタシ又シテアド  
サワイテイルトキ人辭ノニナラヌヤリキタシ又シテアド  
ルトキ辭ニト云フハ知テイル元月カトシテアリシテ  
人ノ氣象ノユモトノ心カトワリト治ラズバ行フヤリモ又  
モトフヤリモヤリシソシテ前ノ致知ノ部ハヨシアモリ時  
味ハ致知ノ身ノ思ラキリ又此ノ部ハ皆是ニテ  
セシヤリナシ元根本ノウリキス存せんテサテシズナラユヘ  
ラ學ノ根本要領トシテ立之シタシ勿論ノ罪人ノ學ハ平  
生存る養育ヨリ如サリユキ子ノ生人教を日用立ラん  
テ一言語ソニクニナリヤリトアルハ皆存る養育ノリテ人  
ア元去元論凡ハ全体テホシテ説テアルユノ近回録テ  
ハヤリニハメテハ説テアルユヘ今自學者ニ至用要  
領ノ旨モセウシト明ナユヘ大切ナ事ト合点シタガ

ヨイシシユノ存る養育ノニテハ孟子ノ友とハセウテタメシ  
人ノ心ヲ惣シテ常ニ住身ニウリテイルモノニウラフカリ  
トヌケテイルニウラフサテハハラクトシテナラフテイル  
モアリ一色ノウラフ思ヒ百色ノウラフモテイルモノ全体カウ  
セウト思フノウラフカトヌケンモヤリ皆ウニナラフセテイル  
タ病ト云モノシ常ニアタフメト我儕ニアウカラヌノ心  
タワフサフテイルモノシテイルノ心ハ夫タト云モノシ又ハウカ  
ト日用ラフクフシメト云モノシモ失セタシ親ニウカ(君ニウ  
カスヘイ)場ノヌケタリノ事ノ後手ニナラフタリスルモ失セタ  
ト云モノ又世間ノウラフサヌハ我儕ノアウカラヌノ心  
レハサソノワルハモウシ失セタシ又眼前ノウラフカフイテ  
ヨソノノニナカシモウシナリニトシテイルト云ハミナ  
コレガ存セタノ病ナリカイカラテモ日用カラテモコレカ  
ミナカラアルハ全体トラシテイルモノハ親ノイキイソモシラス  
ニウラフカリトシテイルハ只ハトシ又妻子ニトアラフカ世間ニ  
トラルハカスルナリコレカ全体テモアリ一事ノ場テモア



此常用之物也。不足為信。與至尊平生有何密契。

願得以聞。答曰。但云七月七日長生殿夜半無人私

語時。曾依記否。使者遂曰。鈿合釵髮。佛玄宗笑金

曰。世在。所有豈得相怡。使者曰。以貴妃密契。以聞奉

來。慟絕良久。語使者曰。方不謬矣。今世人猶言奉宗

與貴妃。如世間為夫妻。之至矣。

長恨歌。明皇思得。傾國美自之婦。不致所言之。唐君借誤為喻。

送皇重色思。傾國御宇。多年求不得。楊家有女初長

成。楊玄琰女。環釵在深閨。人未識。天生麗質難自棄。一

朝選在君王側。元十一年。敏于壽。師為壽王。妃后

女。回頭一笑百媚生。六官粉黛無顏色。春寒賜浴華

清池。溫泉水滑洗凝脂。遊性其首。神女。生瘡始

皇。怖謝。神女。有出。溫。溫泉。而洗。除。明。皇。難。錦。天。皇。六

載。更。溫。泉。曰。卷。清。宮。湯。治。并。為。池。掌。賜。貴。妃。浴。於。溫

湯。安。福。山。於。苑。湯。以。玉。菓。龜。皂。石。梁。石。侍。兒。扶。起

嬌。無。力。始。是。新。美。思。淚。時。雲。鬢。花。顏。金。步。瑤。記。明。堂

首。飾。也。今。之。芙蓉。帳。暖。度。春。霄。若。短。日。高。起。後

世。君。王。不。早。朝。羨。歡。侍。宴。無。閑。暇。春。從。春。遊。夜。專。夜

後宮佳麗三千人。三千寵愛在一身。金屋粧成嬌侍

牡丹記

本真詩解語

元恨色傾唐

借誤故。受誤至李夫人

云。李。年。力。可。云。顧

傾人城。再顧傾人國。云

武宗。云。云。云。云

貴妃代是。李昭訓女。云

弄。日。積。累。王。其。皇。毛。力

世。震。下。前。之。三。野。也。ハ

カ。ナ。サ

三。李。記。云。往。上。云。古。ハ

秦。シ。ハ。三。人。人。領。之。然。ル。シ

始。皇。ノ。取。只。一。人。人。領。之。之

世。三。人。領。之。時。之。更。シ。記

ス。ル。シ。三。李。記。ト。云。ハ

武。帝。為。昭。東。主。年。教。止。長。松。公。主。抱。向。云。見。歌。得。婦。否。曰。歌。得。指。所。嬌。帝。作。金。屋。傳。云。云。

世作世壽時一李係

世之上云云

仙系。故。世。世。世。一。一。一。由。云。年。貴。妃。見。給。又。妃。毛。死。年。云。月。言。曲。シ。禰。カ。曲。ト。云。云。

金屋粧成嬌侍



リ皆トラシテイヌバハアモリヤウモウシ學者デモウツ  
カリトシテ日月シラリカワリトクラスハスワキリトラシ  
メト云モウシ又事ノハテモウカト物カイテ書オトシ  
人ノ名ヲ我カ名ニ書メリスルワメテイフバンシクタイト之  
ヌリ人サヤウシク論足テメシハクワヌモノロテクイイ耳デ  
キリナシトモシハ天心自然ノ身ト云モノニテなウト云モ  
ニテナイシクシクシク鼻アリナカラキシワケラシスロアリナ  
カウ味ツシラウ人ハ存セウト云モウシサテモト存セ又  
サワテアトテ汗カリメリ梅スリスんシクハヤハリ昔  
ノ通りテイんシクシクモ何ヤウノイリスんモ根本  
ドグイ一ツカ留守デイールニカイシキ身ガケカラデ  
存養ト云ハコトハカソナワフテイんシトカリ我平生心  
ノ存セヌリヲヨクオおくテイんカヨイソコテ我ニヤイカ  
百んヤウシクシクシク全体ヌケヌト思テイルユハワルイ  
イカサニウツカリトシテ人ノ云フモキヤヌカ茶碗ヲ

トリノオトスカトおケタシク存セウト云テイんシハ存  
セヌ上ノ存セヌト云病シ誠ニサメカク吟味シメトキハウカ  
トシメト云ハハツシクヤウシクシク物ニウツカリト失セル  
ヤウニアルハ存セヌト云モウシ養ト云人ノ心ハソテナラウ  
ルケレバテハンカラハヌハ俗カラヤシクナンモノシ云家  
ハヌコテモ田舎ハヤウテオソトワルシモノシ僅ニ常住イヤ  
モノニウキアハハモウイシ立フルニイハ俗気象元ニオあつス  
シラスヒトリ我ナリカラヤシクモナリクビテリルモノシ  
ソシユハ平生身モチ我ハ俗ノワルクソウ子ヌヤウシクトス  
テウハハヌハ各別ニヤカリテリルモノシソシユハ親ニワ  
君ニ任ノヌカカウサト云テハサケシ元百姓ニモノナテ  
先イノケハイナシバカリソメニモサニクサジャリハイナ  
ハウエノイソハ平生ソメテヤウノ思キニシトウスレバ  
ヤウ先トキリハヤイモウ平生ヤシサウテ独リ心ト元ニヨク  
ワテクムモノシソウサウテメシサナリガデレシナリ意テ



自研味至生西句雲閣二字二句并人字屋句以河通用之緩駁至四句自生行字三句自翠花馬前死三句四句三句

夜王樓宜能醉和春姊妹才兄皆烈士可憐光彩生

門天逐令天下父母心不重生男重生女杜詩生女

慢舞凝絲弄尺日君王看不足漢陽擊鼓動地來天

十四載安思山牽藩兵十餘万起漢陽而向請闕詔

言奉詔楊回忠擊鼓之苞動地擊苞史誅

破霓裳羽衣曲而清詩話葉法善引明皇入月宮

便韻乃二者製霓裳羽衣之曲九重城闕烟塵生千

乘万騎西南行翠花搖々行後止西出都門百餘里

六軍不發無奈何宛轉蛾眉馬前死玄宗幸蜀軍次

馬嵬驛將士飢

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

自研味至生西句雲閣二字二句并人字屋句以河通用之緩駁至四句自生行字三句自翠花馬前死三句四句三句

夜王樓宜能醉和春姊妹才兄皆烈士可憐光彩生

門天逐令天下父母心不重生男重生女杜詩生女

慢舞凝絲弄尺日君王看不足漢陽擊鼓動地來天

十四載安思山牽藩兵十餘万起漢陽而向請闕詔

言奉詔楊回忠擊鼓之苞動地擊苞史誅

破霓裳羽衣曲而清詩話葉法善引明皇入月宮

便韻乃二者製霓裳羽衣之曲九重城闕烟塵生千

乘万騎西南行翠花搖々行後止西出都門百餘里

六軍不發無奈何宛轉蛾眉馬前死玄宗幸蜀軍次

馬嵬驛將士飢

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣

其樣其樣



かつ内ハシララシイ類モルモノ篤好ラシクモ之元モ  
ナシ元根ノイイコトニツキ又モトコソテイイツル此後モ  
テ一ニ氣家元ニ自ラデンモノユレシテ我ヤシイノ熟モ又  
テリ知ヌカヨリししテ存下ラハ全体正根ノ又ク又リ養  
ト云ハ心神ノアジスナラヌノ各テヤウト合点スベシコソテ  
存養ト端的ニシテイイテイイアタメセヌノツキコソテ  
シ中庸テハ戒謹恐懼ト云モ存養ノイイイワズキ存  
ル前知ヌカヨリシシメテ平生サヤリシシタシクイケズ自  
然ニソメテイイノ心あるヤリカキテクニトユカドコ  
ニテモ存養ノイイイイ存養ト云ハ威儀言動以佐元ニ失  
セヌニヤシサワルシク云コシラフンク合点スルト身ハドウ  
アハ心カキテイイハヨリト云ハハハ又威儀容身正モ  
ヨリトシシキカハルハ必キシアテシクワタリ我ハノ敷  
礼スルニカキテ又モユレシモワズイシテコソハハツ身ノト

ワケワシナシニ身ト元ニウセスアタメニイカヌヤツニ平生  
養良フナリガヌツニ心身一故ニナフテイイリオトニニツ存養  
ト云ニカキテ人自ラ身ガヌナ理モユルハハツ高ラズルノ  
念慮モ崩れぬフナシトモ我理ノ熟モ又理ノ今人日月忘  
接ニモナラヌニ書テキワメズサズ人致知シ日月忘  
接ノ向何オド養ソカアワテモ生シワキノ又弱ナモヤン  
コソナモノハ事実ニオイト吟味セヌハサラズニ克己者  
學シシトハキタハ存養ニシテ存養ト云ハ人事ナ  
イサキニシテオソドダリシ迄ニ合点シテ敵ナリサキニ  
域ヲ立テ盗人ナリサキニ目付リワケテ礼ノ又ヤラニスル  
コソガ天下トワクノ存養ト云モノコソ存養ノ迄ハ上天  
子カラ下ハ庶人ニ至ルテコソ高ルイイイイ百姓ニ存  
養セリノワシメト云ハ庶民ニシテ元我身ヲツシ  
レトキ人ニツク家業ヲツクニセヌハハツ年貢如在ニシテ  
ハト方切ガテ何カ各別ナハツシ三月不違仁ト云



楊妃懷憂... 萬壽而... 行... 冠

夜... 竹... 塵... 埃... 誰... 知... 拍... 香... 羅... 小... 路... 轉... 回... 元... 宇... 躑... 躑... 不... 能... 去... 馬... 嵬... 坡... 下... 泥... 土... 中... 不... 見... 王... 顏... 空... 死

君臣相顧... 盡... 泣... 衣... 東... 望... 都... 門... 信... 馬... 飯... 來... 池... 苑... 皆

依... 田... 大... 泣... 芙... 蓉... 未... 夾... 標... 芙... 蓉... 如... 面... 柳... 如... 眉... 對... 此... 如... 何... 不... 渡... 巫... 春... 風... 桃... 李... 花... 開... 日... 秋... 梧... 桐... 葉... 落... 時... 見... 芙... 蓉... 則... 思... 貴

宮... 南... 苑... 多... 秋... 中... 落... 葉... 滿... 階... 紅... 不... 掃... 梨... 園... 牙... 子... 白... 髮... 新

未... 能... 眠... 遲... 鐘... 漏... 初... 長... 夜... 耿... 星... 河... 欲... 曙... 天... 鴛... 鴦... 瓦

冷... 霜... 花... 重... 翡... 翠... 衾... 寒... 誰... 與... 共... 悠... 生... 死... 別... 經... 年... 魂... 魄

不... 曾... 未... 入... 多... 臨... 邛... 道... 士... 鴻... 都... 客... 能... 以... 精... 神

致... 魂... 魄... 為... 感... 君... 王... 展... 轉... 思... 遂... 教... 方... 士... 慇... 懃... 覓... 非... 夙... 馭

荒... 荒... 皆... 不... 見... 息... 閑... 海... 上... 有... 仙... 山... 在... 虛... 無... 縹... 緲... 間... 樓

殿... 玲... 瓊... 五... 起... 其... 中... 綽... 約... 多... 仙... 子... 中... 有... 一... 人... 字... 玉... 真

高... 轉... 教... 小... 玉... 報... 双... 成... 閑... 道... 誤... 家... 天... 子... 使... 九... 卷... 帳... 裡... 多

久... 卜... 利... ト... ム... 子... ノ... 間... モ... ニ... ツ... キ... ス... イ... ヲ... ヲ... 堂... ヲ... ハ... ト... モ... シ... ヒ

鐘... 音... 年... シ... ハ... カ... 待... ヲ... ヲ... シ... キ... モ... ト... リ... キ... 明... ヲ... 月

頰... 時... 玉... 在... 相... 削... 小... 王... ト... ハ... 召... 便... 侍... 女... ツ... ヲ... 一... 且... 爪... 老... 益... 不... 放... 桐... 房... 深... 呼... 必... 宜... 愁... 情... 輕... 小... 玉... 本... 各... 更... 只... 要... 極... 節... 認... 得... 聲

董... 双... 成... 而... 玉... 母... 侍... 女... 王... 一... 降... 侍... 女... 餘... 侍... 女... 玉... 子... 玉... 玉... 彈... 八... 狼... 琴... 双... 成... 吹... 了... 和... 魚... 許... 復... 數... 美... 鹿... 篋... 寄... 法... 與... 歌... 之... 真... 曲

貴... 妃... 也... 雪... 膚... 花... 白... 參... 差... 是... 金... 闌... 西... 廂... 叩... 玉

為... 轉... 教... 小... 玉... 報... 双... 成... 閑... 道... 誤... 家... 天... 子... 使... 九... 卷... 帳... 裡... 多

貴... 妃... 也... 雪... 膚... 花... 白... 參... 差... 是... 金... 闌... 西... 廂... 叩... 玉

殿... 玲... 瓊... 五... 起... 其... 中... 綽... 約... 多... 仙... 子... 中... 有... 一... 人... 字... 玉... 真

荒... 荒... 皆... 不... 見... 息... 閑... 海... 上... 有... 仙... 山... 在... 虛... 無... 縹... 緲... 間... 樓

致... 魂... 魄... 為... 感... 君... 王... 展... 轉... 思... 遂... 教... 方... 士... 慇... 懃... 覓... 非... 夙... 馭

不... 曾... 未... 入... 多... 臨... 邛... 道... 士... 鴻... 都... 客... 能... 以... 精... 神

未... 能... 眠... 遲... 鐘... 漏... 初... 長... 夜... 耿... 星... 河... 欲... 曙... 天... 鴛... 鴦... 瓦

冷... 霜... 花... 重... 翡... 翠... 衾... 寒... 誰... 與... 共... 悠... 生... 死... 別... 經... 年... 魂... 魄

不... 曾... 未... 入... 多... 臨... 邛... 道... 士... 鴻... 都... 客... 能... 以... 精... 神

致... 魂... 魄... 為... 感... 君... 王... 展... 轉... 思... 遂... 教... 方... 士... 慇... 懃... 覓... 非... 夙... 馭

荒... 荒... 皆... 不... 見... 息... 閑... 海... 上... 有... 仙... 山... 在... 虛... 無... 縹... 緲... 間... 樓

殿... 玲... 瓊... 五... 起... 其... 中... 綽... 約... 多... 仙... 子... 中... 有... 一... 人... 字... 玉... 真



親子のハサシハハカシテ下ラモコノ存養ハサタリシ存養ト  
云モ教ノリシ元トシラ身ニ存スルト云ハサタリシ  
ソシケタヤラニルルシ在ハ無ニ對テリシ存養ハ  
ラサズソシケタヤラニルルシ在ハ無ニ對テリシ存養ハ  
ハヤツガアラシテツルハトシラソシケテハ雨ノ草ホ  
ラシラシノヒヤカニスルヤシ  
スルシソノ氣ハアサオキヤ夜子又トキ有モシソラ常  
ニアラスルヤラニスルテ存養シシテ存養ハ存養者ノ根  
本ノタ子ニテテスルシ

### ○聖可此字手條

常人ト聖人トラシシハ大祐タカシ子カラテイハ同一  
人トラシシトモ天ノあんヤラカキ元学ト云カク人  
聖ニイタルノ道ヤラキ常人デモ学ニイカシラヤラキ

キタイモヤカ何ト人ト云モノハ学テ聖ハイカシ  
ラヤモノカキカシラヤトシ曰可ト聖学論ト云テ初テ  
通書ニタサシメハコノ周子ノ書シヤラド学テイタラ  
ルヤラヤトシ有要キト云ハサヤラキ学ハソノヤ  
全体ト云フハオヒタシヤカ何トソノコシカラヤケバ  
ツシタト云フハコノ知シヤラ云クシメカガコサカ  
トシ同有トハヤラドアンシ一鳥要ト云コシガ聖学ノ干  
要トヤトシト云コシヤラニニワシヤラ云ク人ノ皆平生  
ラシハ親ニ事人ノ者ニカシ元何ヤラヤラニシワテオヤ  
アハニヤリ有ヤリシヤラモシヤリ人ハタシヤナモ  
ノカシ欲ガザハト散ラケテニワシヤラシソノニシリコ  
ヤリノヒカシヤラヤラヒトリハニ端ガニヤラニヤ  
ト云シ書ヲ白メハ書ヤリ白リ外ハ親ニ對スルヤ  
ナリニイトヤリヨリ外ハ宗廟人向ハ宗廟ナリ敬



魂驚攬衣推枕起徘徊珠箔銀屏遷迤閣雲鬢半偏

新睡竟花冠不整下堂來風吹仙袂飄飄舉猶似霓

裳羽衣舞玉容寂寞淚欄干梨卷一枝春常雨含情

凝眸謝君王一別音容兩渺茫昭陽殿裡思愛絕蓬

萊宮中日月長回首下望人寰處不見長安見塵霧

唯將旧物表深情鈿合金釵寄將去釵留一股合一

扇釵擘黃金合釵但令心似金鈿望天上人間會

相見臨別慇懃重寄詞中有新誓兩心知七月七日

長生殿長生殿名也夜半無人私語時天聖十載明皇

杜詩雙雞爛漫相見

後欄下

攬衣下堂來四句三句

爪吹三句而牽四句三句

含情日月長四句三句

自面三句將去四句

三句釵留相見四句

臨別之絕期八句五句

直書

感牛女之哀壑相誓心在天願作比翼鳥鳥名一羽

為比在地願為連理枝板樹一枝相向連接肺理而生

盟誓天長地久有時盡世恨綿綿觀天長地

也名之意可知矣

天長地久可有特世恨綿綿

知矣世有依長名心可知

長恨歌之終

建中元年一禱

毛詩云其崇其為谷

深谷為一陵

周天壤重化教治了心  
依也天地周備五入  
傳終三年一禱  
建中元年一禱  
毛詩云其崇其為谷  
深谷為一陵







Handwritten text in cursive style, likely a commentary or transcription of the main text. It is written in a dense, flowing script across the right side of the page.

元和唐憲宗年号也十九年改元白采天也牧人也

白石說說守は度日秋下

詩く載始未日引体如行春日行放情且哥也兼く日善行悲如雷冷通理俗日謹

走馬引 卷竟引

又云馬上胡兒排舞听此也 志道不如飯 似杜鵑

比也長三又五寸之三又取天地

琵琶引

并序 載始未日引

白采天

元和十五年秋茅元近九江郡司馬明年秋送客至

湓浦口聞舟舫中夜彈琵琶者聽其音錚々然有京

都色向其人本是長安倡家女嘗學琵琶於穆曹二

善才委長色衰委身為商人婦遂金酒使快彈教曲

六龍惘然自釵小季時歡余夏今漂淪憔悴轉徙於

江湖間予出宮二年恬然自安感斯人言是夕始覺

有迹謫意回為長句歌以贈之凡六百二十二言命

日琵琶行其抑揚頓挫流離沈鬱之能全千之之下

其抑揚ト云々ヨリ下ハ各一注者之説也此註之采天作引抑揚ト能縦今也ト云云凡見者必以此也哀怨ト云了ラト云云



此ナリカ目ニミテイルユコハ夜ニノバヤシトモ大屋  
ノヤウニ目ヲハメテハトキハソシシ欲ニ四ガトラシテ身  
ガトウノヤウニカニ弱シ利害ニ十カレテオオクスシラズ  
ニ至スニ人コト有セズハヤリトカクノ誠意ト正  
ツトヒキアテト有養トヒキアワテ人ソシユ  
スツニ人欲私意ノナリカク有らん有セズラウシ  
ル有ハクニカメレハ人欲克シモ有ハクト合点スベシ  
同ノノ語ハカケテユヘクヨリノ合点スベシ辭ト虚ミ  
辭ト云ハ何モ事ノ端カクニタフサフルヲヤリク云ソノ  
トキニ欲アルモノハ我ヒトト座シテモカクシタラズヨカ  
トウシテラズハ我モノニナラトウニムシテハ心ニフサ  
ニナリ有ユ極テウニカサシイリ有テ虚シイリハヤウ  
自ラウニ煩イリナリカモ苦ナリ心ノ辭トハバシナリ  
リニハレキフテタムフサフルニヤリラト虚ト云ハシ  
動真ト

云ハ身ノ通リ心ノナリニズワカリトテハ行ルラ直ト云  
ワフカニ欲アヒムイトシイ親モイトトヤラズトテ又  
モノ人主ノ下ノ水損カ復スラキイテハ去トテハ不  
使ナリヤヤト思元善シシイト云ウラシバアワシム氣象  
ハアリフソノ不便ナラハスフトデ又モシシ虚明ニ云明  
ハ理ノスガメニキレサウウニウフスルイウニサワリニ  
イト明ナモシ辭ト虚明ト云ハウニトキニギモヤク  
スルト必ズ人ノナリモニキレテキユルモノシ人主ノ下  
アワシニウト思ハ又オユリラセウトスルトヨロシウ  
ナイラ進メレ元カレシキ水ヤリガニ又モシシ心ニ  
一物何ゾメテハ人ニ理ノ自然ニミテユ又モシシ心  
ニカレリモ煩モサケレハ黑白分ウニアルモノシ理ノト  
ラトユニテモソノ理ノナリカイキワメリニ通ルヤヤ  
人主ノ上カライトバ下ノイメムワケガ固ヒロシト云  
元伐官



琴字一自始一入也而終一入也

宛然琵琶哀怨之考也

世行八十八句之七言故以七字主之則六百十六字之序之六百二十二言者此也

琵琶行

得陽江頭夜送客

郡名也

楓葉秋花秋瑟

列傳

兩岸蕭蕭

主人下馬

客在船奉酒飲飲無管絃醉不

成歡慘特別之特范

江浸月忽聞水上琵琶

考主

人志故客不發尋志暗問彈者誰琵琶也傳故語遲

移船相近邀相見添酒回燈重開宴千呼萬喚始出

來猶抱琵琶半遮面轉撥絃三兩志未成曲調先軸

有情

推手前日琵琶引手却日琵琶也

絃掩抑考之

思似訖平生不得志低眉信手續續彈說盡心中無

限更輕掩慢撥復挑初為霓裳后六公

六公獲素梁大絃嘈々如急雨小絃切々如私語嘈

切々錯雜彈大珠小珠落玉盤間關鶯語花底滑

幽咽泉流水下灘水泉冷澹絃凝絕々々不通志暫

歇別有幽怨暗恨生世時無色勝有色銀瓶乍破水

漿迸鐵騎突出刀鎗鳴曲終抽撥當心叠四絃一色

如裂帛東船西船悄無言唯見江心秋月白沉吟收

玉篇掩口曰馬掩頭撥比末而宛聞又傳之心動絃之八伊克而之僅枕賦之微急之而語二句題而石今按林明珠錯處賊荷衣个而此也鄉言一也唯至下雖句三句絃歌二句別有在猶鳴四句三句曲終夜月白四句三句水本无无触石無言水本无无天目鏡劍炎禪林上繞屋流泉撥妙音白玉琴

先面白アハ心アリ



ノワケモ庄屋ノワケモ民ノ若ムワケモサテ人コシ人イキ  
トヒカヌコシ人偽ヤト云カ自ラ理ハクハコシ人オト  
ニ明通ト云フ直則云云ト云ハシ一毛ノ為ニ私メ  
イラフ云ツニイリワリノ振ルノ事ニハコシ人カト云  
モテイテモワケルルヲサナリ理ノ自然ニ平ナクソノ理  
ガ親ニ事人ト云フ者ニナリ君ニ事人ト忠トナリ内外  
表裏イキワケルルヲ云フ傳レト云コシ人ハ心ノ氣ヲカ  
明通公傳ニ云スハ我ワケルルナリカクイハ明通スガ  
メ正シラト云フモテイテモ行ルハカク云フハ云フハ明  
通ヲ傳ト云カト云カラテメサレバニナ欲ナシト云一言カ  
ラダヤシソノ無欲ト云ハ理ヨリ外ニナシナリト云ト下  
云モノシサケラサケラ人聖ラ道ヲ近カラフト云

# ○陽始生條

日知錄卷之四十四 陽始生條

次オクニ秋カラソノニシワテソシカラフワリニ十月ニナワテ  
陰ノ至極ニシテソノ下カラ陽キサヌコト時ワルルアラ  
ビント必ズ僅ニキサヌ陽氣ニソノニシ立チナリト云カ  
ニソシニソノ僅ニキサヌ一陽ヲソノ冬ニワトテ昔ハ冬  
至ノ自ニサワテハ今テソノ正月ニヤリニ天下ノ國所ハ  
クテ定テ陽ノ崩ラニワカコシカ先生ノ法テ自ラ  
天地ノ理ト相成ルニ一三代ノ時今ハ極テ人國ハ通ラ  
スハナラフト云フ事ニシカニシテ人ハカコシカ手生  
ノシオキテアワタソノ何トヤラカクハハ依ナ  
ル物モ通ルモノヤカ去トテ人不自由ナラナリニ  
キユシ元シモ冬至ニシハ風ハ通ラヌト云ノ天下ニ  
トシ先王ノ風俗ナシハ兼テ合點シテ誠ニカラノセヨバ  
遂化ノ氣ノキワト我ハ通ラニナリテアラフト云テ



中卷二句  
杜秋娘美人入宮後世  
年十五人為李騎力  
奴不得一日忘  
五陵長一侯真帝年  
武帝平一侯帝是  
武帝平一侯帝是

黃妃琵琶  
撥狎絃中整頓衣裳起欵容自言本是京城女家在  
蝦蟇陵下住十三字化琵琶成名屬教坊才一部曲

罷常教善才服高齊詩高元和曹保有子善才粧成

每被秋娘妬五陵年少爭纏頭唐王元宝富而無學

耳注賜歌舞之者利物也一曲紅綃不知教鈿頭

銀篦擊節碎紅色羅裙翻酒污今季歡笑復明年秋

月春風寺閑度弟走從車阿姨死莫去朝來顏色故

門前零落鞍馬稀老大嫁作商人婦商人重利輕別

雷前月得梁買茶去既其海梁縣去來江口守空船遠

我聞日相機三四句三句入通句之

船明月江水寒夜深忽夢少年多啼粧緩紅欄于

長恨壽玉容寂寞淚欄于已上係商人婦之所訴也我聞琵琶已歎息已下乃

商人又聞世語重唧唧同是天涯淪落人相逢何必

曾相識我從去年辭帝京謫居卧病潯陽城得陽地

碎无音系終不聞繁華色住近湓江地低濕黃房

若亦遠宅生其間且暮聞何物杜鵑啼血猿哀鳴春

紅花朝秋月夜往往取酒還獨傾羅郭說色々啼血

哀猿啼向花枝謝吳蓮日豈無山歌与村笛嘔啞啾唧難為听啞音啞

明音朝听涉轄及今夜因君琵琶語如听仙乐耳暫

言其色韵粗俗也

相識之末上句三四句  
人于下句三四句

羅郭說色々啼血  
林說中色

明听鳥色







明莫辞更坐，彈一曲為君，龍作琵琶，術感我，呖言良。

感我至夜，濕六寸，男子久立，却坐，役絃々轉急，事々不似，向前，色滿，座，因之。

皆掩泣，就中泣下，誰最多，江只司馬，青衫濕。

目馬注，如何，夜半，著青衫也。

### 琵琶術人終

各項一言世治中，比不置，我武士間，僻支出來，有回亂，王位也，所謂，亦來，天皇，殺伯父。

中微，上天能，惟石，大臣，良房，房之女，惟教，惟之，文能，崩，給，后，子，清和，天皇，七十六，大。

天智，天皇，王子，大伴，作，亂，復，統，親，王，始，賜，原，代，之，衣，從，天皇，清和，才，三，王子，之。

清和，天皇，八，惟，仁，奉，讓，皇，帝，四，十六，代，目，在，位，十，年，亦，從，其，命，危，子，長，及。

### 天神七代

一國常立尊 陽神 二國狹狹尊 陽神 三豐斟樽尊 陽神 以上三代陽神

四倭土者尊 陽神 沙土者尊 五大戶之道尊 陽神 大戶間邊命 陽神

六面足尊 陽神 沙土者尊 七伊弉諾尊 伊弉册命 陽神

### 地神五代

一天照天神 二武甕槌尊 連日天恩穗耳尊 三天津彥尊 大瓊杵尊

四彥火之出見尊 五彥火之武鸕草尊 不合尊 母豐玉姬河童之尊

自天神才四代以來，海陽交會，有男神，有神，有春，合，身，於，石，上，見，史，尾，忽，然，發，陰，陽，之，氣，曰，我，有。

所余，有，不，定，我，所，餘，加，注，所，不，定，是，豈，合，是，初，也，天神，七代，住，高，原，於，教，家，發，泉，六，天，皇，初，利。

二柱，一，女，三，男，子，是，在，神，祇，流，三，果，木，社，蛭，子，三，部，殿，伊，勢，內，宮，有，月，子，宮，三，女，天，照，天神，有，信。











ヲ立ナリカ此道ニナラヌ又チトニモリ養食ト云ヒ養  
ト云ハ俄ニ身ヲヨクセウノ俄ニソクテウノハケキレテ  
身死シテセウノト云ヤウナリト云根ナクテ又クニ  
支ナキ生リイフトナリト云元ニヨクヤウニソクテ  
ナシオクド云カコシカ存者ト云事トシ推己云ヒ  
養フナリト云人ニスルシメテヨク自ナリト云人ニ  
ハ昔養ナリト云ミヨクノスル事トニ養人ト云ヒ  
テ云フハミナシナリカカウナシサテ己ニ存養人  
ニ云フハニテアハニリソクヤウニキユル元ワメテ  
云ハ存養ノ效ハ身自ラ人ニ存養ハ己ニナラズト  
モニアウセテ語ラシクソクシテ聖賢ノカメラレシコ  
ノ存養ありト云クナリハナリト云クハ身ヲ培フ  
云ハ意ハ切テアシ元平生身ト元ニナシナリナリテ  
セヨ人常ニ注意テカシモトウトスルニ效ノワクヤ

ウハナリしヨシエテカラガ俄ニ行ニアワカリケキ  
シテスルカシテ益ニ及シ又日用ノ所積スル間カラキ  
セズニソノハテスグニ身ト元ニ養テイケルヒトリ我身  
ノヨクヤウニナリクスルベナラヌ又平生日用相手ト  
ト云ウケケシニ全体ヤウナルカ旨ヤシイノ義也

### の慎言 諸條

人ノコトハおト人ノコトハ実ノアラワルシモノナリトシ言ホ  
ト人ノ氣象ノアラワルモノハナイト云ト云ガ身ノ実ノ  
ヒイトテヒルモノトシテ言ラ慎ト云ト必身ノナシ  
ヤイト一体ニナワテイソクモノトシ言語ラフシムトナリ  
ソメニモアタニセアガウ上ニイテハシクアイトテ  
じソノ上ニ実不実ヲ考テハシクニ不実ナリト  
云ヤウニ言語ヲ慎クト必不実ナリト



論議，疏云：劉洵、仁、合、之、時、先、中、九、鬼、鬼、來、告、吉、備、公、曰、君、未、知、吾、是、先、季、遣、

時先中九鬼鬼來告吉備公曰君未知吾是先季遣

唐使宰相安部中九也稱官貢徵少為武帝所殺恨

慨甚深故我已成赤鬼住荒原而暮日域孰憶先夏

紅綾綬今馬亦君定可被責世誠惻隱辱故吾款令

汝知笑吉備公明朝參內獻官物武帝稱徵少款責

公但大唐之法制恣不殺无咎試其能才不達者殺

之故武帝款殺公巧諶而云扶桑國未知團碁之遊

明且召遣唐使以團碁可決雌雄若未決者忽可殺

宣諶百官卿相皆憶吉備公万死一生矣其夜及三

更鬼來告公曰君未知團碁遊明朝於殿上可被令

汝團碁局不勝則被殺本日吾未知碁局如何鬼云

夫團碁者盤面有四九三百六十月有黑白小石三

百六十个以配一止之中數黑白以配上合十五白

月下合十五黑月以世黑白石人我互置目上兩目

相續為生不續日死時公負鬼背上紫覆殿通夜令

看之明日召公令團碁局即勝之故不殺死也次武

帝又諶曰吉備公未知昭明太子所作文違字之無

讀者即害之矣其夜又鬼來告公曰武帝每朝讀文

帝又諶曰吉備公未知昭明太子所作文違字之無

讀者即害之矣其夜又鬼來告公曰武帝每朝讀文

紅綾綬今馬亦君定可被責世誠惻隱辱故吾款令

三更上夜初一云三更子三三四月四日五十一然則三三夜半

時天子行政也

吉備公不思又勝其子細敵石之目盜取冬紙卷之然石投之

八木之人死於水銀一故鬼也

結前生者之緣

吉備

吉備公

公

明且

宣諶

更鬼

汝團

夫團

百六

月下

相續

看之

帝又

讀者

二十五月... 下五月... 光之掩放... 陰之是黑... 月



モロコシコノ言あト人モサミクノニスルモノスクヤカニスルモ  
ノナクコシ笑ヤクノケヒタモアリ僅ニ為テイソト  
トククト次身ヲ云テコトガ口テ云テモナシ元我心  
上カラデシクユ(必其ナリ)ガ氣象ニアラワルシモノシ  
去ユ(ニ怒気スギキモノ言ハ必ソノヤラワルシモノ  
言あト威儀深抑ノアラワルシモノヤクコシ去元言語  
ト云モノハウソト云モノノワカンハユ(ニ子言言ヲモ云  
イソワリヲモ云ハ言シシラヤシ不定ナクサテ  
ヤトヒタト誤テイクテイカイトモニアラハト云  
あトニ養性ト云言語ヲソクニシタリサテニスルト  
我心ノ養性ト云ソクテタムト云モソコシ事之云ス大事ノ  
語ニアラフんフスミナラシシ事之云ス大事ノ  
至テ近クサレタリハトシメハ人ノ身テ人々トク

大事ニスルト云テクニスルトテツキテスル  
飲食ヲ失テハ体ヲソク子言語ヲウモナク人ノ身  
ノ性ガソク子(コシニカク切ナシ)名ウニイハヒロ  
イヤクシトモ日用ト元ニ養性ト云ラ合点シメカコリシ必  
ス存養性ト云ハ心(イカシ)メカフテ只心ノ又ヤ  
ソクトスルシトクニ思タスニテヤイ日用平生  
バゴトニウシシトクニ元ニ熟シテイソトヒトリソク  
クイ身ヤリ氣象元ニ各別ニナラテクルモノシ

# の震驚馬百里條

易ノ震ノ卦ハ人ノスサヒシイ震動ノ来んヲシテ説  
テソノ震動ノスサヒシイヲシテハ雷震あトナ  
リヤイユ(一震ト云フ)雷ト云モノハ百里ヲヒシホ  
トノモユ(イカヤリ)雷ト云モノハ百里ヲヒシホ



誓首八九拜首人  
才一替首才一頓  
才三空首才一頓  
才五吉祥才六法拜  
才七奇拜才八府拜  
才九東拜是也

佛天加被力云教頭加  
直加一二現教頭加云  
イ不現教頭加ト云

下學集云吉備大臣元正  
皇取遣君使云在唐  
取被詩替馬臺云云  
義理難曉蜘蛛引糸而  
教之市侍侍馬馬跡  
蛛即我朝和長谷  
實喜助之太臣在唐拜  
和奇馬

相藏一人五十年  
建三極那八手氏先祖  
子之母極醜婦之重婚  
婦者有明行并林竹母  
草見以半匿會改懷  
姓重之其云云云我  
為二余殿登其言既  
少二余殿因了名八同  
與末云不踏地末奇  
同目休云誠不口云云  
同契而賢文之上八五  
日到真王然米三余殿  
前御人良久人藤久而  
我同當矣公後後三位  
許相幸而叙心  
小野相公當主參後從三  
位右大臣長六六二寸破  
軍星化身之故嫌之性  
還更存飲參談小野  
才守長春子之當主  
息道胤を善一各一小野  
道胤之參談當主  
百人二首三多ワタ原  
下フミカチ下子出下又  
人ミハク下ヨリ下リ下

相藏一人五十年  
建三極那八手氏先祖  
子之母極醜婦之重婚  
婦者有明行并林竹母  
草見以半匿會改懷  
姓重之其云云云我  
為二余殿登其言既  
少二余殿因了名八同  
與末云不踏地末奇  
同目休云誠不口云云  
同契而賢文之上八五  
日到真王然米三余殿  
前御人良久人藤久而  
我同當矣公後後三位  
許相幸而叙心  
小野相公當主參後從三  
位右大臣長六六二寸破  
軍星化身之故嫌之性  
還更存飲參談小野  
才守長春子之當主  
息道胤を善一各一小野  
道胤之參談當主  
百人二首三多ワタ原  
下フミカチ下子出下又  
人ミハク下ヨリ下リ下

進居我背上提可関之施至帝边直听之而后日百公

令讀之其句云流水早落鳥速去故不殺死才三

又談云作乱行不同之文教令公讀宝志和尚請詔

命作野馬臺之文奉武帝須朝字士群集讀之極不

知其理即五言十二韵百二十字也扶柔繼文也鬼

又告公曰有世謀術我不能善之技柔神回也願公

祈和朝佛天可求之術教畢去矣時公愕然而向俵

東举手低頭頓拜替首云伏冀以佛天加被力讀世

各一字一言無洋同朗明然令皈朝仰天伏地殊

公平常信長谷寺觀音時觀音垂大慈分身化現蜘蛛  
救彼命慮即明日於殿上被搜世各文字紛乱義

理全難知意既慙愁取有一蜘蛛未落東字上引糸

依行跡詩馬忽然開明也故不殺却無相遠皈朝君

致竟乘民救塗炭從尔已未於本朝以蜘蛛為善瑞

矣其後吉備公秘密卅各傳人不談公死去后玉有

卅各死詩之人遂至于桓武之御宇小野當主家宣旨

教讀之難能卒然詣長谷寺三七日祈請大悲又化

忒感之身為蜘蛛誌之從是以下本朝盛行四夷充

五十年能天王時有落各空惠皇主上之御宇於七續古十已然益皇主上ヨカラト詩之其時也各  
皆主カ所行今ハ亂心セテ其取云後シニ不依何ニモ一四侍申ナリ同ヨセラレク







滿故州各稱技乘來記也來

天皇之件一千百二十季采而格也。卅三季生矣。唐五卅三百七十季采而格。后五十三季生矣。日本开九十季或五十季或四十年。の格也。三季乃至七年生而海水當。一千十七日五十三令充可。彌十三年。交測成河。成測深山。為林之原。為深山。麻稻菜失。度多度矣。五穀枯。失。飢。湯。有七十。交天下。將軍。有。十九度。其。自。中。猴。出。來。食。君。生。日本。神。國。之。故。曰。和。國。下。猴。神。慮。之。本。之。助。信。力。堅。固。人。子。孫。瑞。之。長。ラ。ン。ク。

三白王 伏惟神農黃帝 五帝小昊顓頊高辛代唐堯唐禹桀

小野宮野相公諺談後三位 右大臣長一六二季春文小野峯守

Handwritten text in cursive script, likely a commentary or continuation of the text on the right page.

野馬基詩序

此序并記在鹿園和尚作文トイエリ然鹿園作文中不見乍去於叢林家速作也物之可美也

野馬基詩者梁宝誌和尚所作也野馬者陽焰也其

者謂同也言倭國人道輕薄魚有而如亡猶陽焰起

春臺故指本朝云野馬基也昔宝誌和尚行道日化

女忽然而來与和尚俱語恰如旧相識一女去一女

來如斯一千八人也皆謂本國之始終也和尚怪之

以千八人女作文字者乃倭字也爰知是和國之神

也和尚記其言作一十二韻詩以貽將來矣嗚呼誌

公是觀音大士不知自作倭國之識乎中古聖武皇

讀之在心為志發言日詩志之所之也抄物志意師作倭和之云言天神七代何地神五代始伊許諸和許州而多自高向原天降祭日本始米一千八人神女適之遊也其來同心齊志在和稔之集及國以見和尚以千八人女神女上之倭字由來如也

達大心眼人之見音化身之從唐書景公人梁代人朱代者養自推古天皇定善乃上云自延喜高倉乃中云

梵語等三八云道心之生ツサノ天久 野馬ノ 人王四十五代八







十八階正一位一繼冠上 正四位上 正七位一從一位 錦冠上 簡冠上 鳥冠上 又說九宮九位其取者加大政官九人其時字

紫一錦一青一黑一廿六為左右之臣杖翼然右神武皇帝東征下杖翼是

各上中下アリ 謂一統彼二神之子孫天種子余天福余又為左右

十八階大織冠緋 之杖 衡主建元切 衡主者謂聖德太子也 衡岳惠思

翼 翼臣 初真和法 聖德太子十七个余 終成祭

好定官位 初真和法 聖德太子十七个余 終成祭

討賊卜尋罪代討 十八階也 初真和法 聖德太子十七个余 終成祭

鍾足中大臣入奉大臣ヲ誅 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

鍾足中大臣十九代天智天皇 鍾足中大臣十九代天智天皇

丹水流後 丹水喻天子從天而下之政出於諸侯云云  
天命在三公 言后鳥羽院朝源賴朝討平代而有功  
臣三代元應三年三月  
實朝之











西風剪出暮天霞  
一頃烟波浴桂花  
漢笛不知羈客恨  
直吹寒影過  
荳蔻花

西ノト云不審ノ秋ノ比ナラハ霞ナト云フモ之ナシトモ煙霞風名トテ何モニカイ物ナレ故ニ如世ノ詩ニモ如世作レ者之西風吹テ剪出ストハ秋風ヨリ吹拂時ト秋ノ物ヲキ氣ニ色トモ野也也ハ秋風時ニゴトニカシテ物拂如様ナレ間如世吹拂ツテ秋ノ月ノ面白キヲ野スルカトトセツクニキ浪ノ一波ニ波重シク之烟波トハ浪ナトトモ煙ヲ結ス又遠ニ花海邊ニ見渡ハ烟ト浪トツ見エテナリ桂花トハカツラノ花ノ洞度ニカツラノアトハナキノ頂餘山月ノ内ニ枝ヲ指スシ云之去程ニ寄モ下ノ句ニ月ヲヒタセハ真津白浪ト月ヲ思ス是路トハ浪ヲ心月ヲ洗美之月ヲ云ニカメニ桂ヲ云ニ漢ノトハオトリスニ宿ナリ始テ留ヲ作テ吹ハ水中ニ果皆々散ル集テ漢文仲苗ヲ吹始テ羈客トスニ来ニ旅人今云之笛ヲ吹遊ハスレトモカレ秋ノ物ヲキ変シ不知笛ヲ吹遊ツ旅人恨ヲ云也直ニ寒影トハ秋サムキ比ラス雪ナト降シ云ニカレハ浪モヒロノ又雪モ白ク又アレノ花モ白キ間一方ナラス面白キト氣ニ色ナル間月下至過荳蔻花ト云之吹トハ風ニサソワレテ草木ナヒク之草木ナヒクノ形トスル也

### 山市晴嵐

山市晴嵐ト云ク晴嵐トハ秋ノ風之又ハ嵐吹キ山宅晴テ氣色面白キ伴ト見ヘタリ

一竿酒旆斜陽裡  
教簇人家烟嶂中  
山路醉眠皈去晚  
太平元日不春風

一竿ノトハサナリ酒旆トハ酒ノミセリ斜陽ノ裡トハ日ノ西ニメカメナル義ニ杜子美カ酒旆ノ銘シ東坡續ベク之午八口至兩人上未日邊有等十月斜之七山相並羊脚燒ト云時程未時有美酒ト云又烟嶂中トハ山ノサカキ解烟モミケキ解之山ノトモ市トモ賣買シ之醉狂ニテ或ハ皆酒ノ解故秋風トモ春風ト見テ之秋風トモキ物ノサカモリト酒ニ際リ醉故春風ト思作之 寄ニモ松キキ里ヨリ上ノ山館晴テ此ニミツム山モトノ雪

### 漢村夕照

漢村夕照ト云ク暮色ト云ク若ク若ク暮ク之夕ハ暮ニカク

薄莫沙汀減亂鴉  
江南江北閉魚蝦  
呼童賣酒太家醉  
卧看西風舞荻花

薄莫トハ世ノ句ハ薄暮トハクシ方云之沙汀トハ沙モ入日カヤキト云之亂鴉トハカラスナリクシ方トハカトト村トモ集ル義ニ江ノトハスナドリス者若クカレ処之 魚蝦トハカイノ集ルヒニナキ弟ノ呼童トハ童ニ成人ナラザル惣名ノ十五ヲ成童ト云之又カイノ女ヲ呼テ合ハ酒モリスル解之太家醉トハ田變之田ハカイノ家之醉即ハ解之酒ト云水ナレト 卧トハ卧トカイノ醉伏義或ハ荻花ノカケナトハ解卧ト云之 寄ニ浪ノ色ハ入日アトナシニ碎キハラキ木陰ノ里ト





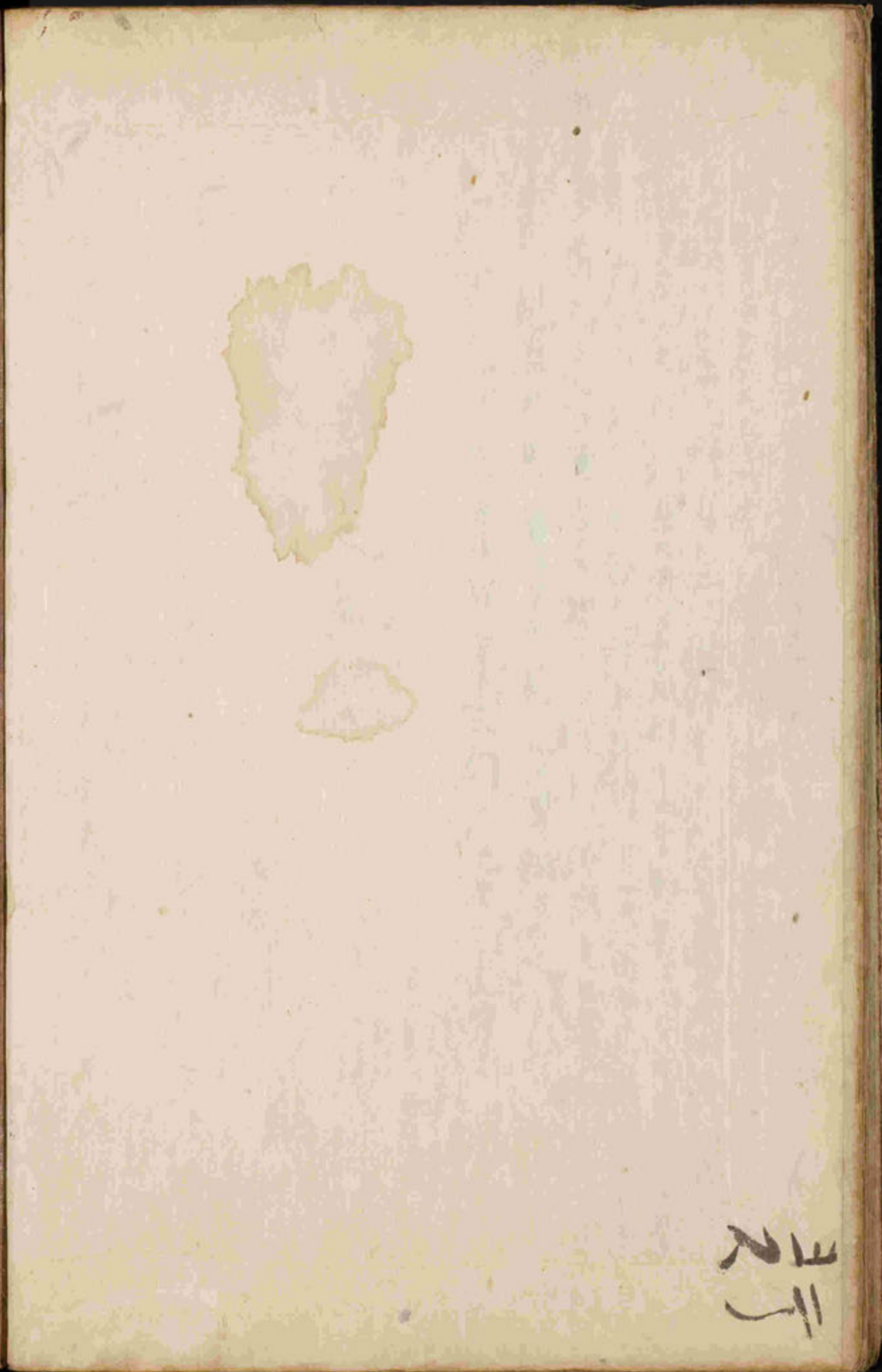


古字トハ多ク足ノ跡ヲ見テ蒼頡文字ヲ作ル之空ニ各ト六空ニテハモトハ金行青紙ニ  
 各ラカキタニ似リ古詩ニモ見ヘタリ淡墨ヲ撰トハアウクトスミテ青キ行ニ撰トハ  
 アハスグニモバサレ者ノ斜方ニモ幾行トトト多ク連テ行変ノ寒行ニ  
 下トハモウキ宿舎行ノ集ル所正行下ニモ程ニ青モ下向堂行ノモ又  
 下トトヨメリサトイタツ白キ也之誤トモアト見ルニト見ル間アヤト云  
 作衡陽ヲ衡陽ト云也青トキ知也錯ト斜陽トハ日カクムクノ凍  
 翎トハ外カヨリ見シハア共ニ皆コブテ見エラ凍翎ト云  
 青云先來食アモベノ交ニサソウシテ堂行ノモ又下トナリ

八景之流

天正七年己未六月如意殊日





二行





110X
560
1